

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 03030050

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	18	住環境の整備	事業優先度	B		
単位施策	2	良好な住生活の確保	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	職員住宅改修工事業		見直し年度	平成27年度		
事業期間	平成25年度～平成27年度		担当課	3 税財管理課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	職員住宅改修工事			#N/A		
事業目標	改修工事(4棟9戸)		ハード/ソフト 事業区分	1	ハード事業	
住民参加 住民協働	無		関係例規・法令名			
			関係個別計画名			

582	全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	○職員住宅改修工事 日の出仲町職員住宅(1棟2戸) 幸町職員住宅(2棟6戸) 日の出北町職員住宅(1棟1戸)	日の出仲町職員住宅(1棟2戸) 内部改修	幸町職員住宅(1棟3戸) 内外部改修	幸町職員住宅(1棟3戸) 内外部改修 日の出北町職員住宅(1棟1戸) 内部改修			
	事業費(千円)	41,680	6,000	14,580	21,100	0	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	41,680	6,000	14,580	21,100			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	46,823	5,912	14,213	26,698	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	46,823	5,912	14,213	26,698			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		職員住宅改修工事 5,912千円	職員住宅改修工事 14,213千円	職員住宅改修工事 消防住宅(3戸) 16,524千円 職員住宅(2戸) 7,560千円 保健師住宅(2戸) 2,614千円		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-終了	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	2戸	3戸	4戸		
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	99%	97%	127%	#DIV/0!	#DIV/0!
	全体達成率	14%	48%	112%	112%	112%	
	備考欄						

事業名	職員住宅改修工事業	評価者	管理職 職氏名	税財管理課長	中村文隆
		評価者	作成者 職氏名	管財係主査	宇野敏志

様式1
平成27年度実施
平成28年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員住宅	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	職員住宅改修	
【抱える課題やニーズは】	職員住宅の老朽化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	良好な住環境の整備	① 職員住宅改修工事	目標年度	平成27年度
			目標値	4戸
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適正な職員住宅の維持管理	②	実績値	7戸
			達成度	175.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	改修工事	施設の維持管理に必要な改修工事を実施する。	目標年度	平成27年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	職員住宅を整備することにより、職員住宅としての活用が推進されるとともに、本町における住宅難の解消にもつながることから、計画的に事業を進める必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	住宅改修により入居者の促進が図られるため、有効である。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	入札の執行により事業費が抑制されており、効率的である。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

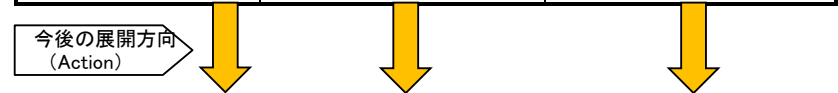
公平	判断の理由	職員住宅を整備して入居者を確保することにより、本町全体の住宅難の解消にもつながるため、公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
改修工事により良好な住環境が整備され、入居者の確保が図られた。		



終了		
予定していた工事は適切に実施されたが、今後も本町の住宅難解消のため、老朽化した職員住宅を計画的に改修する必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止